

釧路森林資源活用円卓会議（第1回 川下部会）について

1. 開催日時 平成23年2月14日（月） 午後3時半～5時
2. 開催場所 釧路工業高等専門学校北方型実験住宅
3. 参加人数 委員13名、オブザーバ8名、事務局11名
4. 会議の概要
 - ・ 地域材利用の拡大策などを検討する「川下部会」の第1回目。
 - ・ 川下部会長は、北海道木質構造開発協議会会長の長谷川渉氏。
 - ・ 今回は、各委員それぞれによる現場での木材（地域材）利用の現状や課題の発表。
 - ・ 釧路工業高等専門学校がものづくりプロジェクトとして、地域の森林資源であるカラマツ材を利用した「北方型実験住宅」内で意見交換を行った。
 - ・ 木造建築にこだわって建設された釧路管内の施設（林業・林産業従事者研修センターハウス）の紹介も行われた（天井に平行弦トラスやVの字トラス工法。外装材のルーバーでの使用。壁に工場で4mのパネルを作る工法など）。
5. 会議での意見
 - ・ 地域材を使う動きを、民間での具体的な取り組みにも結び付けていきたい。
 - ・ カラマツ材は木目がきれいなので、住宅の内装材として人気がある。
 - ・ 材質的にいいものを、安定供給してもらえるといい。
 - ・ 品質的には、無垢材より集成材での使用がよいのではないか。
 - ・ 加工技術（乾燥技術）も良くなったといわれている、価格がもっと安くなればなお良い。
 - ・ 建て主自身が住宅建設に関われる仕組みがあれば、木の性質を認識してもらえ、愛着も湧く。
 - ・ 作り手側がもっと建て主に説明すべき（例：木の性質として多少狂いが出ても構造的には大丈夫）
 - ・ 木造畜舎は、調湿効果があることから牛を育てるのにはいい環境だろう。オガ粉も牛を育てるための敷き料として有効だが、現在不足気味である。
 - ・ 集成材、無垢材は、用途により使い分けすることが大事。
 - ・ 木材業者と建築業者の連携を深め、技術を共有していくことが大切。
 - ・ 工務店では、木造住宅建築に関する知識を伝える勉強会が必要ではないか。
 - ・ 地域材住宅建築に対する支援制度などの国の補助事業もうまく活用すべき。



<円卓会議の様子>